

ずいそう

用水路を歩く

三友 隆



新宿御苑大木戸門の近く、四谷区民センターの一角に高さ4.6mの石碑が立つ。多くの人は気づかずに過ぎ去るが、この石碑こそ玉川上水終点の水番所跡に建立された水道碑記である。当時、開渠でここまで送水され、この先は暗渠（木樋）で江戸市中に配水されていた。ここより西方に遡ること約43km、多摩川の羽村地点に取水口がある。

JR 青梅線羽村駅から河岸段丘の急坂を下り、羽村取水堰に向かう。堰手前の水神社前でまずは拝礼し、取水口前広場に向かうと玉川兄弟の銅像が出迎えてくれる。水路工事を請け負った玉川兄弟は、幕府資金が不足したため私財まで投げ打って1654年に8ヶ月という短期間で水路を完成させたとのことだ。

近くの河原は水遊びやバーベキューを楽しむ大勢の家族連れで賑わっている。羽村取水堰は、投渡堰（堰支柱に丸太を柵状に取り付けた堰）と固定堰の2つを組み合わせたもので、多摩川の増水時は支柱を取り払って取水門の破壊と洪水を回避するという。

取水された豊かな水流は広々とした玉石張り水路を滔々と下る。水路の周囲には桜並木が続き、散歩する人も絶えない。すぐ目の前にサージタンクの塔がそびえ、その先には大口径の水管が水路を跨いでいる。500m先に第3水門と羽村導水ポンプ所があり、今では村山・山口貯水池に羽村取水量の大半を導水しているのだ。この先は水路の幅が狭まり水流も減じている。

取水口から約5km先、拝島駅近くの水路西寄りにある水喰土公園で休憩する。ここは雑木林の中に古上水の堀跡が遺構として残っている。完成した水路に通水したところ厚い砂利層に大量の水が吸い込まれ消失したため、やむなく現在の路線に掘り直したという。

多摩都市モノレールの玉川上水駅を過ぎるとすぐに小平監視所に着く。取水口から13km下流のこの地点で、羽村から流下してきた水道原水は全て取水され村山浄水場に送水されている。小平監視所下流の流れは長い間途絶えていたが、高度処理水を活用した清流復活事業で1986年に清流が復元し鯉などの泳ぐ姿も水面に映っている。ここから野火止用水が川越藩野火止（新座市）に分流している。監視所下流には清流復活の源頭が小滝をつくっている。

武蔵野台地はどこまでも平らで起伏がない。玉川上水は堀割水路で東進し、周囲には広々とした畑地帯が開けている。この先も水路沿いには遊歩道が続き、周囲を覆う雑木林では小鳥のさえずりも聞こえ、ウォーキングには申しぶんない。

小金井公園や境浄水場を左手に眺めつつ、WEBから入手した使い勝手のよい散策イラストマップを片手にさらに歩を進める。三鷹駅を越えてむらさき橋の手前、水路沿いの「風の散歩道」に太宰治にちなんだ「玉鹿石の碑」がひっそりと佇む。この界限には武蔵野を愛でた山本有三の記念館やジブリ美術館もあり、しっとりとした住宅街が広がる。水路左手の井の頭公園には大勢の訪問者が溢れている。井の頭池は家康の江戸入城と同時に造られた神田上水の水源地とされている。

目標の浅間橋地点にたどり着く。取水口から約30kmの距離、杉並区の富士見ヶ丘運動場そばにある。長い道のりであった。この先は中央道下を始め、今は終点までほとんど暗渠化されており、清流復活事業の水流もここが終着である。上流部、中流部、下流部と3分割した完歩達成を、年代、職業、足腰もそれぞれのウォーキング仲間と喜び合う。反省会のビールの味も格別である。

週末ウォーキングは、10年前に九州に単身赴任したのがきっかけで、今も続いている。利根大堰で取水し埼玉平野を潤す見沼代用水は、東・西縁用水路が大宮台地の浸食谷の縁を等高線沿いに流れる。復元された見沼通船堀、水路沿いの緑あふれる斜面林や花卉園芸の盛んな見沼田圃に、首都近郊で水と緑の環境を守る地元の地道な努力が重なり映る。

スタイリッシュで正確無比な分水が可能な円筒分水工のファンは多い。NHKの「熱中人」でも紹介された。川崎市の二ヶ領用水に設置された久地円筒分水工は日本初の円筒分水工であり、その美しい姿を今に見せている。

用水路を歩くと、地域、利用形態、時代背景などにより様々な特徴やそこに暮らす人の営みが見えてくる。水を使うのも守るのも人である。一緒に歩きながら、水との関わりにも一歩を踏み出しませんか。